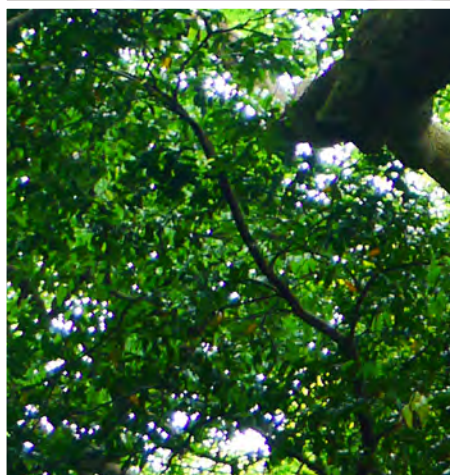


# Nature



## 立花山・ 三日月山 の自然

写真提供・解説文

□立花山グリーンガイドの会

福田 勉 湖尻 浩子

古賀 ヤヨイ 南部 忠男

□日本野鳥の会福岡支部



発行

福岡市東区企画振興課

〒812-8653

福岡市東区箱崎2丁目54番1号

TEL 092-645-1037

FAX 092-651-5097

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/higashi/>

2020年2月発行



## はじめに

立花山・三日月山は、東区の北東部に位置し、尾根筋を福岡市と周辺町（新宮町・久山町）との行政境とし、国の特別天然記念物のクスノキ原生林や戦国時代に多くの攻防を繰り広げた立花城の史跡など、豊かな自然と歴史的資源を有する魅力ある山です。

近年は、健康づくりや遠足などのハイキングコースとして、多くの市民の方々に利用されており、東区でも区の魅力資源として「ふれあいの森」と位置づけ、市民に親しまれる森づくりを進めています。

このパンフレットでは、豊かな自然に溢れる立花山・三日月山とその周辺で見られる樹木・植物・昆虫・野鳥の一部を紹介します。

# 立花山

福岡市東区と糟屋郡新宮、久山両町の境に位置し、標高367mとあまり高くはありませんが、立花丘陵部の主峰で、博多湾を眼下にのぞむそのすっきりとした容姿は、秀峰の名に恥じない山です。

南方尾根沿いに三日月山、北方尾根沿いに松尾岳から白岳へ、また海上からはこの二つの山だけがみえるので古くは二神山と呼ばれていました。

立花城は1334年頃、戦国時代に大友貞載が築き「筑前の要塞」といわれました。250年後、ここで島津勢との攻防で奮戦した立花宗茂の武名を高らしめましたが、小早川隆景、黒田長政が筑前に入るとともに廃城となり、今では当時の石垣が数ヶ所残っているだけとなっています。地質は古成層よりなり、クス・タブの見事な自然林に覆われムクドリなど野鳥もたくさんみられます。

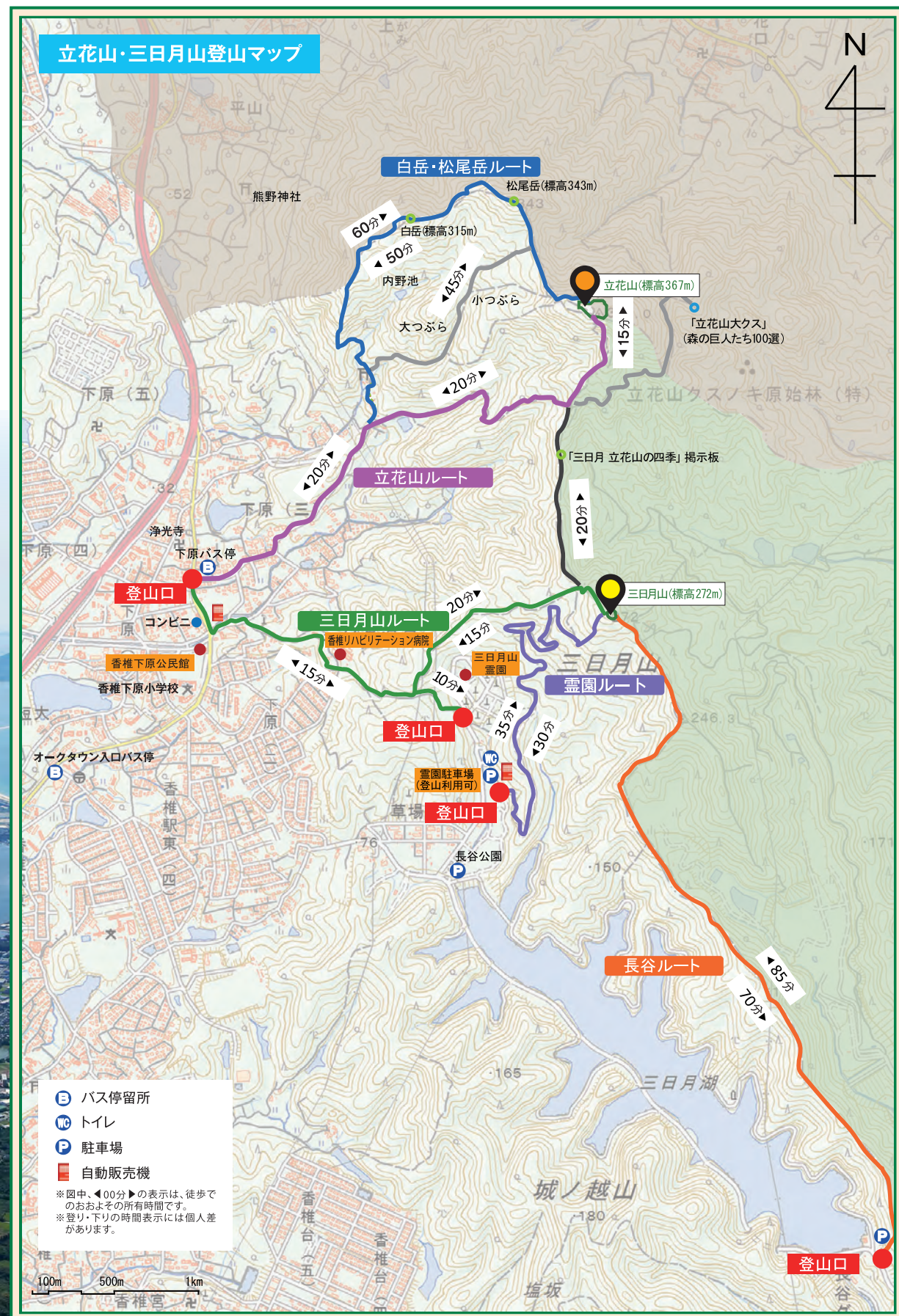
# 三日月山

標高272m。頂上には樹木がなく、ほぼ360度の見晴らしはとても素晴らしく、天智天皇の時代の防人の陣屋跡といわれ、立花城時代には、平陣屋があったことにより、別名「陣山」とも呼ばれています。

立花山より三日月山へのハイキングコースは手頃で、元旦は、初日の出の参拝登山客で賑わいます。

また伝説によると、旧暦の12月22・23日頃に、頂上から見る月が3つに見えるときがあるので、三日月山の名がついたと言われていました。

なお、旧暦の12月22・23日頃は月の形は三日月ではありません。半月です。



# 樹木



## クスノキ(楠木)

立花山のクスノキは、自生の北限として国の特別天然記念物に指定されている。七股クスを初め、数千本が生い茂っている群落は、森林性鳥類の生息地としても重要。アオスジアゲハ(蝶)は、クスノキに頼って生きている。我が国最大の樹木で、樹皮は縦に割れ目が入る。葉は長楕円形でダニ室があり、先は尖り革質、3行脈がハッキリしている。葉を揉むとショウノウの匂いがする。花(5、6月)は黄白色。果実(10、11月)は球状の黒い実。



## タブノキ(楠木)

クスノキ科の常緑高木。神様に手向ける→たぶける→タブになった。樹皮は暗褐色で、縦に割れ目。葉は長楕円形、厚い革質で表面は光沢がある。葉は枝先につく。新芽は1個で大きい。冬を越した若芽は赤くなりよく目立つ。春に黄緑色の小花を密生する。果実は黒紫色に熟する。照葉樹木を作る主な種類の一つ。



## カゴノキ(鹿子木)

立花山の7、8合目あたりから、クスノキ林に混じり目立った存在である。クスノキ科の常緑高木。樹皮は、灰黒色でまだらに剥がれ白い鹿の子模様になる。葉は、長楕円形で枝先に集まって互性、革質で裏面は粉白色。雌雄異株。夏に黄色い小花を密集。果実(7、8月)は7、8mmで赤く熟す。立花山に多い木の一つといえよう。



## ムクノキ(棕木)

立花山山中では散見される程度だが、松尾山の尾根筋沿いに多く、大木に成長。ニレ科の落葉高木。樹皮は淡灰褐色で皮目が筋になって割れ薄片となって剥がれる。葉は、長卵形で先が尖り表面がザラつく。果実(10、11月)は7~12mmの球状で黒く熟し、果肉は甘味があつて食べられる。



## シロダモ(白だも)

クスノキ科の常緑小高木。樹皮は緑色を帯びた暗褐色で平滑。葉は、長楕円形で革質・裏面が白く車状につく。若芽は絹毛が密生して柔らかくピロード状。晩秋に開花し、果実(10、11月)は12~15mm、楕円形で、赤く熟す。前年の花についてた実と花が同時期に見られることも多い。



## コナラ(小楠)

三日月山から立花山間に尾根筋に小面積ではあるがコナラ林がある。ブナ科の落葉高木。樹皮は灰黒色で縦に不規則な裂け目がある。若葉と同時に花をつける。葉は倒卵形でとがった鋸歯がある。裏は淡灰白色。花は4~5月、雄花序は6~9cmで垂れ下がる。黄色に紅葉(11、12月)する。秋に堅果(約2cm、長楕円形で殻斗を持つ)がなる。



## ネムノキ(合歓木)

マメ科の落葉高木。樹皮は灰白色でなめらか。葉は長さ20~30cmの大型の羽状複葉、裏は粉白色。夜は葉が閉じる。枝先に10~20個のピンクの糸のような花(6、7月)をつけ、夕方開花する。冬になると、長さ10cmくらいのはじけたさやをぶら下げている。さやの中には10~15個の種子がある。



## ヤブニッケイ(藪肉桂)

クスノキ科の常緑高木。樹皮は暗灰褐色で割れ目はなく滑らか。葉は長楕円形、革質で下面はやや白味を帯び香気がある。淡黄色い小花(6、7月)をつける。果実(11、12月)は黒色。暖地の高木で照葉樹林をつくる主な種類。種子から香油、葉や樹皮は薬用になる。



**エノキ**(榎)

ニレ科の落葉高木で立花山から松尾山間の尾根筋で、かなりの大木に成長し、立派な群落となっている。樹皮は厚く灰黒褐色で斑点がある。葉は卵形、互性でやや厚く左右不同。春に淡黄色の小さな雄花と雌花の両性花が開く。果実(10月)は楕円球形でだいたい色に熟し食べられる。昔は一里塚によく植えられた。



**エゴノキ**

エゴノキ科の落葉小高木。樹皮は淡黒色で老木は浅く縦に裂ける。葉は互性し、長さ4.5~8cmの長楕円形で先端は鋭くとがる。短枝の先に白花(5、6月)を下向きにつける。木の下面に落ちた花はよく目立つ。果皮にサボニン(有毒)が含まれ、擦り潰して魚取りに使う。種子はヤマガラが食べる。

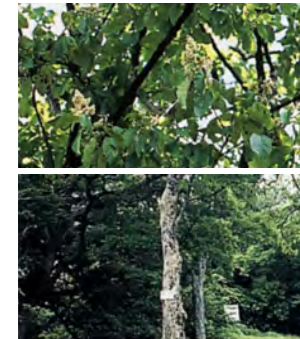


**イヌビワ**(犬枇杷)

クワ科の落葉低木。枝は灰白色で傷つけると乳液が出る。葉は秋に黄葉。実は秋(9、10月)に熟し黒いものは食べられる。雌雄異株で雄花のうは直径1.5cmで赤くなるが食べられない。

**ホソバイヌビワ**(細葉犬枇杷)

イヌビワの中で葉の細いものをいう。イヌビワは別名をコイチヂクというように果実はまさに小さいイチヂクといえる形をしている。



**チシャノキ**(萵菘木)

ムラサキ科の落葉高木。高さ10~20mになる。樹皮には縦の割れ目があり、カキの木に似るので別名カキノキダマシと言う。葉は楕円形で互性、若葉は食べられる。枝先に白色の小花(7月)をびっしりつける。果実は直径4~5mmで黄褐色に熟す。家具の材、染料などに使われる。立花山山頂にある。



**スダジキ**

立花山登山口(下原側)と三日月山登山口の付近に群集し、立花山におけるスダジキ林のサンプルとして、自然観察等教育的な意味で貴重な存在。胸高直径はほとんど30~50cm。ブナ科の常緑高木。樹皮は黒褐色で大木になると縦に深く裂け目ができる。葉は、厚い革質で裏面は灰褐色の毛が密生する。堅果(10、11月)は食用、熟すと殻斗が3つに裂け中から黒い実(シイの実)がのぞく。



**ネジキ**(振木)

ツツジ科の落葉小高木。幹がねじれているのでこの名がついた。若芽と若葉、葉柄は赤みを帯びる。葉は互性し、長さ6~10cmの卵状楕円形で先はとがる。前年度の葉のわきから鐘形の白い花(6月頃)をたくさん下向きに吊り下げる。花冠は壺形で長さ8~10mm。



**ヤブツバキ**(藪椿)

松尾山~白岳~平山の登山道沿いに群生し、花ツバキコースを形成。沿海地に多いが山地にも生え、大きいものは高さ10~15mにもなる。ツバキ科の常緑高木。樹皮は灰黄褐色。葉は互性し、厚くてかたく表面は濃緑色で光沢がある。枝先に赤い花(1~4月)をつける。花弁は長さ3~5cmで5~6枚下部で合着し、平開しない。



**ナナメノキ**(七実木)

モチノキ科の常緑高木で高さ12mくらいになる。葉は互性し長楕円形で先はやや尾状に尖る。ふちにはまばらな浅い鋸歯があり、やや革質で表面は光沢がある。6月頃に淡紫色で直径5mmの花をつける。球状の赤い実(11、12月)をつける。



**ナラガシワ**(檜栂)

ブナ科の落葉高木。樹皮は灰黒褐色で不規則な裂け目がある。葉は、コナラを大きくした長楕円形で長さ10~25cm、縁は鋸歯状で裏面は灰白色。2~3cm葉柄がある。開化した翌年に、楕円形(約2cm)で椀形の殻斗(皿)を持った堅果をつける。材は堅く、器具、杭などに用いる。



**ネコノチチ**(猫乳)

クロウメモドキ科の落葉高木で樹皮は暗褐色。葉は、長楕円形で先が尾状に細長く突き出て2枚1組で互性する。晩春に葉の付け根に黄緑色の小花をつける。果実は長楕円形で、その形が猫の乳首に似ていることから名がついた。果実は黄色から赤色になって黒紫色に熟す。立花山山頂に数本見られる。



**ハゼノキ**(榎木)

ウルシ科の落葉小高木。高さ約10mになる。葉は羽状複葉で互性する。裏面は緑白色。西日本ではいち早く紅葉するので目立つ。初夏に葉腋から長さ10cmの円錐花序を出し、黄緑色の小花をつける。核果はロウの原料となり、直径約1cmの扁球形で白くて光沢がある。ひどくはかぶれない。



**アラカシ**(粗榎)

ブナ科の常緑高木。やせ地にもよく生え、照葉樹林に広く見られる。樹皮は暗緑灰色。葉は楕円形で互性し、葉先が急に尖り上半分に大きな鋸歯があり、裏は灰白色の毛が密生する。4~5月、長さ5~10cmの雄花序を垂らし、上部の葉腋に雌花を1~3個つける。堅果(11、12月)は15~20mm、楕円形で横型の殻斗(皿)をもつ。



**カラスザンショウ**(烏山椒)

ミカン科の落葉高木。樹幹にトゲの先がとれて半球状の台が残る。樹皮は灰色で縦に皮目がある。小枝にトゲが多い。葉は、長さ30~80cmの大型の羽状複葉。枝先に淡緑色の円錐花序(7、8月頃)をつけて咲く。カラスザンショウの名は、カラスがこの種子を好んで食べることによる。



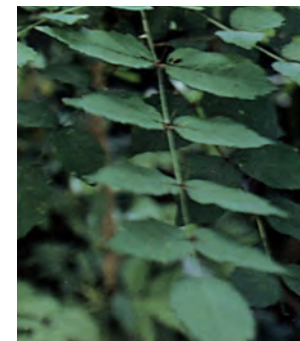
**テイカカズラ**(定家葛)

キョウチクトウ科の常緑つる性植物。茎は付着根を持ち、木や岩をのぼる。太い茎は8cmにもなる。葉は、対性し、革質でツヤがある。花(5、6月頃)は芳香があり、はじめ白色(約3cm)のち淡黄色になる。花冠は長さ7~8mmの筒状で上半分がややふくれて5裂し、裂片はスクリュー状にねじれて平開する。実は弓状になって2個ずつつり下がり、熟すと割れ、冠毛をつけた種子を風散布する。



**コウゾ**(楮)

クワ科の落葉低木。高さは2~5m。若枝は褐色で長くのび細い。樹皮は非常に強い。和紙の原料のため各地で栽培されている。雌雄同株。葉は互性し卵形。新葉とともに小花(4、5月)が球状に集まって咲く。果実が球形に集まって、初夏に赤く熟して甘くて食べられる。



**タラノキ**(榎木)

ウコギ科の落葉低木。高さ3~5mになる。根や葉に鋭いトゲがある。葉は互性し、大形の羽状複葉。夏に白い小花が穂状に咲く。若葉は香気があり山菜としてよく知られている。果実は直径約3mmの球形で、10~11月に黒く熟す。



**カクレミノ**(隠蓑)

ウコギ科の常緑小高木。高さ9~15mになる。葉は互生し、厚く光沢がある。若木の葉は5裂するものが多い。ふつう長さ5~12cmの卵形または倒卵形で全縁または2~3裂する。枝先に散形花序を1~数個だし、黄緑色の小さな花(6~7月)を多数つける。果実(11、12月)は黒く熟す。



**キズタ**(木蓑)

ウコギ科の常緑つる性でフユズタの別名がある。茎から気根を出して、岩や木にはい登る。葉は卵状披針形で、若枝の葉は3~5裂する。球形の散形花序に黄緑色で5弁の小さな花(10、11月)をつける。果実は球形で翌年の春に黒く熟す。



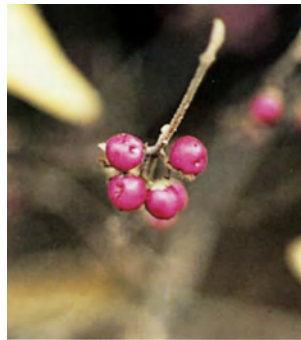
**リョウブ**(令法)

リョウブ科の落葉高木。樹皮は薄片となって剥がれ、あとは茶褐色でなめらか。葉は枝先に集まってつき、先が鋭く尖り、縁に鋸歯がある。枝先に総状花序(穂)をつくり、白色の小花(7~9月)を多数つける。若芽は食料、材は床柱や薪炭に利用される。



**アオキ**(青木)

立花山、三日月山低木層の樹林としては最優占種植物。アオキ科の常緑低木。若枝は緑色で名が付いた。葉は荒い鋸歯があり質は厚く表面は光沢がある。押葉にすると黒くなり、葉の汁は解熱効果がある。春には紫褐色の小花をつけ、雌雄異株。雌株は冬に赤い実をつける。



**ヤブムラサキ**(藪紫)

シソ科の落葉低木で高さは2~3mになる。葉に毛が多くビロード布に触れたようである。葉腋には淡紫色の小さな花(6~7月)を数個つける。ムラサキ色で球形の実(10~11月)をつける。



**ニワトコ**(庭常)

レンブクソウ科の落葉低木で下部から分枝して高さ3~6mになる。若枝は淡緑色から淡褐色になる。古枝は樹皮が縦に裂けて落ちる。コルク質が発達し、ズイは植物実験のビスの材料にする。



**ネズミモチ**(鼠糞)

モクセイ科の常緑低木。葉は対生し長さ4~8cm、革質で光沢がある。本年枝の先に長さ5~12cmの円錐花序をだして、白い花(5、6月)をつけ、ネズミのふん状の黒紫色の果実(8~10月)をつけるのでこの名がある。



**ヤブコウジ**(藪柑子)

サクラソウ科の常緑小低木。山地の木陰に群生。地下茎で殖え、葉は長楕円形で3、4個が輪生状に互生する。初夏に花冠の5裂する小花(5~8mm)をつける。球状の実(11~2月)は赤く熟する。庭木や鉢植えの観賞用に栽植される。



**アカメガシワ**(赤芽櫛)

トウダイグサ科の落葉高木。二次林によく生える若葉が鮮紅色であることから名がついた。樹皮は灰褐色で浅い割れ目が縦に細く入る。若芽には紅色の短毛が密生。緑色の広卵形の葉に成長。初夏に枝先に長さ7~20cmの円錐花序を出し、花弁のない小さな花を多数つけ、雌雄異株。葉は薬用。



**ノグルミ**(野胡桃)

クルミ科の落葉高木。葉はやや大型の奇数羽状複葉、ふちに重鋸歯がある。初夏に黄緑色の穂状花序を直立する。雌雄同株。球果状の果穂(11、12月)は楕円形(3、4cm)で苞の中に翼のある堅果がある。材は下駄、マッチの軸木、果序は染料とする。



**クロミノサワフタギ**(黒実沢塞)

ハイノキ科の落葉小高木。樹皮は灰褐色で縦に裂ける。葉はサワフタギ、タンナサワフタギよりかなり小さく、下面はこくに脈沿いに毛が多く、やや灰白色となる。春から夏にかけて小さな白色花を多数つける。卵球状の黒い果実(11、12月頃)をつけるので名がついた。



**サルトリイバラ**(猿捕茨)

サルトリイバラ科のつる性落葉低木。茎はかたく節ごとに屈曲し、まばらにトゲがある。葉は互生し、長さ3~12cmの円形、または楕円形。葉柄は短く左右の托葉は葉柄と合着し、さや状に茎をだき、その先端はまきひげとなって他の物にまきつく。葉はお餅を包むのに使用。4、5月頃に黄緑色の小さな花を多数つける。赤い実(10、11月)。



**マムミ**(真弓)

ニシキギ科の落葉低木で高さは3~5mだが15mくらいの大木もある。雌雄異株。淡緑色の花(5、6月)をまばらに開く。枝先に赤い実(10、11月)をつける。昔この材で弓を作ったことから真弓の名がある。材は白く緻密で狂いが少ない。



**クサギ**(臭木)

シソ科の落葉高木。樹皮は灰白色。葉は対生して長さ8~20cmで柄が長い。白か淡紅色の花(8、9月)をたくさんつけ、がくは紅紫色で宿存性。青紫色の果実(10、11月)は染料となる。若葉は食用にする。枝や葉には強い悪臭があるのでこの名がある。



**コアカソ**(小赤麻)

イラクサ科の落葉低木。枝を多く出し、高さ120cmくらいになる。葉は対生し長い柄があり、茎と同じく赤味を帯びる。花は夏から秋にかけ、淡緑色の穂状花をつける。雌雄同株で、雌花穂は茎の上部、雄花穂は下部になる。



**ハスノハカズラ**(蓮葉葛)

ツツラフジ科のつる性の落葉植物。海岸や海に近い山地に生え、葉は三角形広卵形で無毛。葉柄は葉の下面にT字状につく。雌雄異株。花は夏から秋、果実は約径6mmで朱紅色に熟す。葉が楕形でハスの葉に似ていることにちなんだ名。

# 植物 春 夏



**キチジョウソウ** (吉祥草) キジカクシ科  
暖地の林に生える常緑の多年生植物である。淡い紅紫色の花をつけ実は赤い。名は縁起がよい事に因む。



**ツクシヨウジヨウバカマ** (筑紫猩々袴) ユリ科  
山地の谷沿いや湿ったところを好む。花は白い。花の色を猩々の顔に、広がった葉を袴に見立てた。



**スミレ** (墨入) スミレ科  
山野の日当たりのよい所を好む。花は紫色で葉の柄に翼がある。花の形が大工道具の墨入れに似る。



**ミヤコグサ** (都草) マメ科  
1~1.5cmの蝶の羽の形をした花をつける。日当たりのよい山地を好む。都(京都)に多かったから。



**フナバラソウ** (船腹草) キョウチクトウ科  
細長い楕円形の実が船底の形をしているから。花は小さく茎につけエンジ色をしている。



**ヒメハギ** (姫萩) ヒメハギ科  
日当たりの良い山地を好む。蝶の羽の形をした花をつける。紅紫色の花がマメ科のハギに似る。



**シャガ** (射干) アヤメ科  
多年草で葉は細長くて剣の形状をしている。花は青紫色を帯びた白色である。シャガは中国名である。



**フデリンドウ** (筆竜胆) リンドウ科  
野山に生え、丈が5~10cmの多年草である。和名はつぼみが毛筆の穂先のようにみえるからである。



**ホウチャクソウ** (宝鐸草) イヌサフラン科  
葉は互生で茎は分枝する。花は緑白色の筒型で長さが3cm程ある。花が寺社の軒先に下がる宝鐸に似る。



**シャク** (杓) セリ科  
湿り気のある草地を好む。白い小さな花の集まりである。果実が神事に使う「さく米」の米粒に似ている。



**ドクダミ** (毒だみ) ドクダミ科  
名は毒や痛みに効くことからついたもので民間薬として利用される。半日陰を好む。



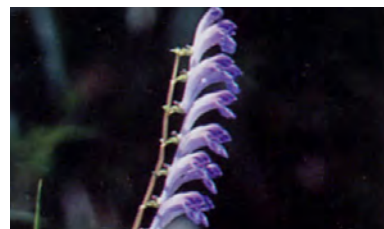
**ハナミョウガ** (花茗荷) ショウガ科  
花は白地に紅色の筋がはいる。葉裏に軟毛をもつ。ショウガに対し「妹香」(めのか)をなまってるよんだ。



**マムシグサ** (蝮草) サトイモ科  
花の茎がマムシの体の模様に似ている。花の中心部の棒状のものは仏炎苞といい緑や紫色である。



**ノアザミ** (野薊) キク科  
アザミの仲間でも春に咲くのは本種だけである。葉の縁には鋭い棘をもつ。花は紅紫色で直立している。



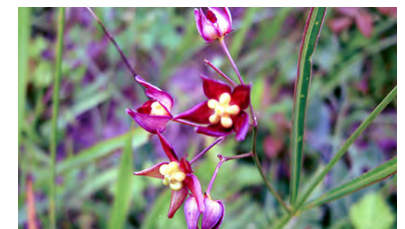
**シソバツナミ** (紫蘇葉立浪) シソ科  
葉がシソの葉に似ている。花がかたまって咲く様が荒海の立浪を連想させる。花が特異な唇形状である。



**クサイチゴ** (草莓) バラ科  
イチゴのような実をつけ草のような茂り方をする。実は食べて甘い。花は葉に比べて大きく目立つ。



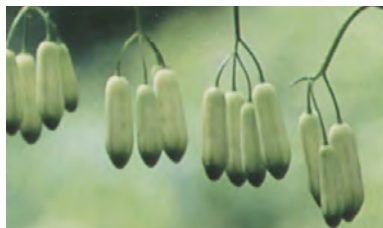
**オカトラノオ** (丘虎尾) サクラソウ科  
各地の山野に生える多年草。花は傾いた茎の上部に集まってつき、虎の尾を連想させる。



**スズサイコ** (鈴柴胡) ガガイモ科  
日当たりのよい山地に生える。長さが7mmの袋状の実をつける。ミシマサイコに似て実が鈴の形。



**コガクウツギ** (小額空木) アジサイ科  
名はウツギより花が小さいから。落葉性の低木。樹高は2m程で若枝は黒紫色をしている。



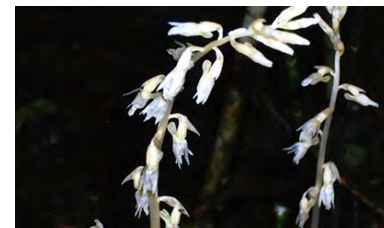
**ナルコユリ** (鳴子百合) キジカクシ科  
筒状の花が茎の葉の脇から垂れ下がってつく様が鳴子のような。葉は細長く表面には毛がない。



**カノコソウ** (鹿子草) オミナエシ科  
小さな花が集まった様が鹿の子模様のようだから。立花山では白岳の山頂に多くみられる。



**ギンリョウソウ** (銀竜草) ツツジ科  
山地の湿り気があるところに生える腐生植物。葉緑素をもたない。全体が竜を連想させる。



**タシロラン** (田代蘭) ラン科  
和名は命名者の名前である。葉緑素をもたずに枯葉などを分解して生きている腐生植物である。



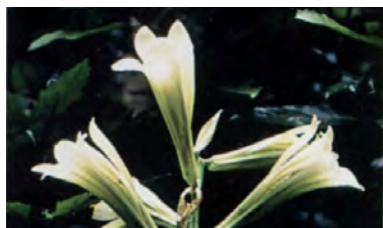
**キジムシロ** (雉薺) バラ科  
黄色い花をつけて株は円形に広がる。葉は5~7枚に分かれており、全体に長毛がある。

# 植物

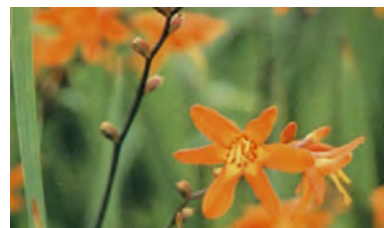
秋 冬



**ヤブカンゾウ** (藪萱草) ユリ科  
草丈は1mほどになり、花は橙色で八重咲である。雄しべが花びらのようになっている。食用。



**ウバユリ** (姥百合) ユリ科  
和名は花が咲いているのに葉(歯)が落ちてなくなるから。葉は茎の基部に集まってつく。



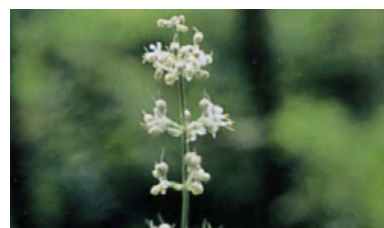
**ヒメヒオウギズイセン** (姫檜扇水仙) アヤメ科  
欧州からの帰化植物。株の中心から花の茎がでてラッパ状で朱赤色の花を二列につける。



**フシグロ** (節黒) ナデシコ科  
茎の節が暗紫色だから。山地の草原に生え、茎の先に白い花をつける。



**オニユリ** (鬼百合) ユリ科  
大型のユリである。花も大きく色は橙色である。葉の基部にむかごをつけるのが特徴である。



**ヤブミョウガ** (藪茗荷) ツユクサ科  
茎は直立して1mにもなり先端に白色の小さな花を輪状に段階をつくって咲く。葉がミョウガに似る。



**ホシアサガオ** (星朝顔) ヒルガオ科  
北米原産の帰化植物で西日本に分布する。小型の花を夜空の星のようにつけている。



**キクイモ** (菊芋) キク科  
北米原産の帰化植物。地下に大きな芋をつくり食用や飼料用にする。黄色のキクに似た花をつける。



**カワラナデシコ** (河原撫子) ナデシコ科  
河原だけでなく草地にも生えており桃色の花びらの先が切れ込んでおり可愛いから。秋の七草。



**オトギリソウ** (弟切草) オトギリソウ科  
葉の黒色の点が弟を切ってきた血の跡という。血止め薬として利用する。草地に生える多年草。



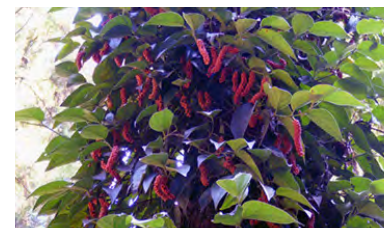
**オミナエシ** (女郎花) オミナエシ科  
黄色で小さな花が多数集まって大きな塊をつくる。秋の七草。美人が口にする飯という意味である。



**ノヒメユリ** (野姫百合) ユリ科  
山地に生える多年草で葉は細長く、橙赤色の可愛い花が下向きに咲く。ユリはそよ風にも揺れるから。



**コショウノキ** (胡椒木) ジンチョウゲ科  
春に白くてジンチョウゲにそっくりの花をつけ、冬に赤い実をつける。実を噛むととても辛い。



**フウトウカズラ** (風藤葛) コショウ科  
つる性の木本で全体からよい香りがする。赤い実の集合体はくの字に曲がつく。



**メハジキ** (目弾) シソ科  
花の頃に乾燥させて産前産後の保護薬とする。子供達が茎を短く切り臉に貼って遊んだという。



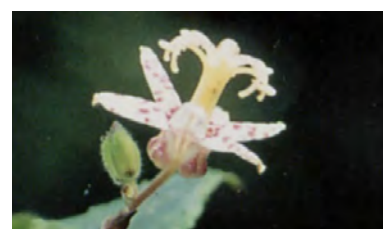
**キンミズヒキ** (金水引) パラ科  
道端や草地を好む。黄色の小さな花が穂になってつく。黄色の花の穂を金色の水引にたとえた。



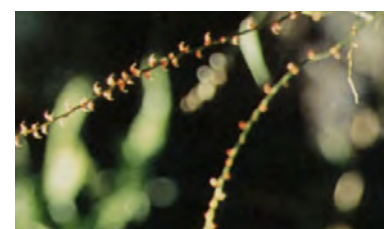
**ヘクソカズラ** (屁糞葛) アカネ科  
葉や茎から悪臭がすることから名がついた。つる性で他の植物にからみついて上。花は小さく可愛い。



**クサギ** (臭木) シソ科  
葉に悪臭があるので名がついた。紫色の実と赤色のがく片とが対症的で美しい。樹高は人の背丈の約2倍。



**ヤマジノホトギス** (山路不如帰) ユリ科  
花びらの紫色斑点をホトギスの胸の斑紋にみたてた。茎に下向きの毛が密生。花びらは横向きに開く。



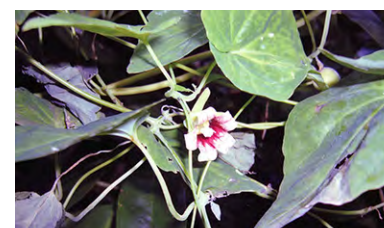
**ミズヒキ** (水引) タデ科  
花の列を上から見ると赤、下から見ると白で水引に見えるから。葉に八の字の黒い模様がある。茎の節部は膨らむ。



**アキカラマツ** (秋唐松) キンボウゲ科  
秋に唐松の葉のような小さな黄緑色の花をつけることから。丘陵地に生育する。



**ヤマハッカ** (山薄荷) シソ科  
山地の林縁にはえ青紫色の鐘型の花を穂になってつける。葉は対生で稀に輪生する。臭いはもたない。



**ツルギキョウ** (蔓桔梗) キキョウ科  
つる性の多年草。花びらは5裂し先端はやや尖る。キキョウに似たつぼ型の花をつける。



**ヒメヤマアザミ** (姫山薊) キク科  
姫とは小さいとか愛らしいという場合に使う。葉の縁に棘。



**ガングビスウ**(雁首草) キク科  
下向きにつける花の形がぎせるの雁首に似ている。ふつうキク科の花の周りにある舌状花はない。



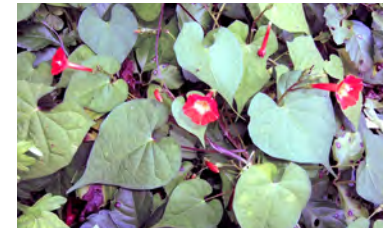
**ゲンノショウコ**(現証拠) フウロソウ科  
下痢止めの民間薬として胃や腸に実際に好く効く。花は白色や紅紫色で花びらに数本の黒い筋が入る。



**ヒヨドリバナ**(鶉花) キク科  
ヒヨドリが鳴く頃に花が咲くから。草丈は1~2mもある。花の色はピンク色の他に白色もある。



**クズ**(葛) マメ科  
秋の七草の一つ。つる性の多年草。根を食用にする。国産(吉野川上流一帯)が葛粉の産地だから。



**マルバルコウ**(丸葉纒紅) ヒルガオ科  
熱帯アメリカ原産。ヒルガオ科のルコウに似るが葉が丸いから。



**ヤマラッキョウ**(山辣韭) ヒガンバナ科  
ニラの匂いは弱い。鱗茎と呼ばれる茎の一部で冬を越す。中国原産で和名は中国名と思われる。



**キジョラン**(鬼女蘭) ガガイモ科  
つる性植物。種子の白く長い冠毛を鬼女の髪の毛に見たてた。アサギマダラという蝶の幼虫が食べる。



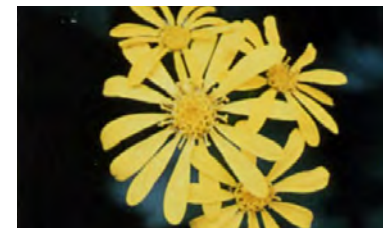
**サイヨウシャジン**(細葉沙参) キキョウ科  
細い葉をもつシャジンのかまという意味。紫色をしたつぼ形の花から雌しべが突き出す。草原に多い。



**センニンソウ**(仙人草) キンボウゲ科  
白い花をつけ、花後には花柱(めしべの柱の部分)が伸びて仙人の髪のようにみえるから。



**ツチアケビ**(土木通) ラン科  
地面から生えてアケビに似た実をつける。葉がなくて腐ったものを養分とする腐生植物である。



**ツブキ**(石蓼) キク科  
葉に艶のあるフキ。花は黄色で径6cmもある。若い葉の茎は食用になる。



**イズセンリョウ**(伊豆千両) ヤブコウジ科  
全体がセンリョウに似ていて伊豆半島の伊豆神社に多いから。谷筋のような湿り気がある所を好む。



**ナワシログミ**(苗代菜萁) グミ科  
苗代を作る時期(5~6月)に赤い実をつけるから。樹皮は灰白色で黒い点のような皮目が目立つ。



**ヤブムラサキ**(藪紫) シソ科  
林縁でみられ花も実も赤紫色をしてとてもきれいだから。落葉低木で葉に軟毛がある。



**キッコウハグマ**(亀甲白熊) キク科  
五角形の葉を亀の甲羅に、白く細長い花びらをヤクのしっぽの毛で作った神事のお祓いに見立てた。



**ツルリンドウ**(蔓竜胆) リンドウ科  
つる性でリンドウに似た花をつける。花は淡紫色で先は5裂している。



**マムシグサ**(蝮草) サトイモ科  
花の茎の模様がマムシに似ている。実は鮮やかな赤色でかたまってつく。有毒植物。



**ヤマアイ**(山藍) トウダイグサ科  
乾燥させた地下茎は紫色で衣服を染める染料とする。雄花と雌花が別にある。



**ゴンズイ**(権葎) ミツバウツギ科  
黒い実を赤い苞がつつま目立つ。名は魚のゴンズイに似て役立たずだから。



**ビナンカズラ**(美男葛) マツバサ科  
茎や実から採った液を整髪料に使っていたからという。つる性の木本で他の木にからみつく。



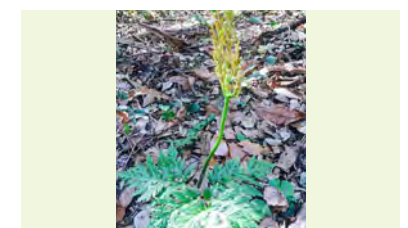
**アキノ麒麟ソウ**(秋麒麟草) キク科  
花をペンケイソウ科の麒麟ソウ(傷草がなまった)に見立てた。セイタカアワダチソウに似る。



**オオイヌノフグリ**(大犬陰囊) オオバコ科  
実の形が犬のフグリに似る。別名星の瞳。ユーラシア・アフリカ原産の帰化植物。道端の小さな植物。



**オドリコソウ**(踊子草) シソ科  
輪になってつくピンクや白の花を笠をかぶった踊り子に見立てた。茎はシソ科の特徴である四角形。



**フエノハナワラビ**(冬花蕨) ハナヤスリ科  
シダの仲間でも葉を落とさず緑色をしている。胞子嚢が集合している様は花が咲いているみたい。





**キアゲハ** アゲハチョウ科  
出現期4月～10月  
幼虫の食草はミカンやカラタチなど。アゲハチョウに似るが羽の地が黄色である。



**ナガサキアゲハ** アゲハチョウ科  
出現期4月～8月  
幼虫の食草はミカン、カラタチ、サンショウなど。雄は全体が黒で雌は黒地に白い筋がある。



**キチョウ** シロチョウ科  
出現期4月～9月  
幼虫の食草はフジやネムノキなど。雄も雌も同様の斑紋をもつ。



**シオカラトンボ** トンボ科  
出現期5月～8月 体長30mm  
池や沼など水が動かないところを好む。雄の体は青白色、雌は緑がかった青白色である。



**ギンヤンマ** ヤンマ科  
出現期3月～11月 体長50mm  
体色はうすい緑色で美しい。植物が茂る池や沼を好む。



**オニヤンマ** オニヤンマ科  
出現期6月～11月 体長70mm  
日本最大のトンボで腹部に黄色の縞模様がある。山地の路上を飛ぶ。



**イシガケチョウ** タテハチョウ科  
出現期6月～8月  
幼虫の食草はイヌビワ、オオイタビなど。雌は雄の白斑の部分が黄味を帯びる。



**クロセセリ** セセリチョウ科  
出現期6月～8月  
幼虫の草食はハナミョウガやミョウガ。飛び方はとても速い。大きく白い紋が目立つ。



**アカタテハ** タテハチョウ科  
出現期5月～翌年3月  
幼虫の食草はカラムシ、ヤブマオなど。雄と雌の斑紋はほぼ同じ。



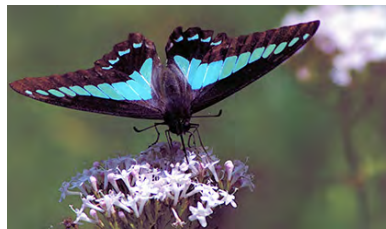
**ベニイトトンボ** イトトンボ科  
出現期5月～10月 体長35mm  
草地や水辺を好む。雄の体色は赤褐色だが雌は淡黄色である。



**アキアカネ** トンボ科  
出現期6月～12月 体長25mm  
草地や水辺を好む。雄の腹部は濃い赤色だが雌は淡黄色である。



**クワカミキリ** カミキリムシ科  
出現期6月～8月 体長35mmほど  
中型のカミキリムシ。サクラの木やイチジクに多い。



**アオスジアゲハ** アゲハチョウ科  
出現期4月～10月  
幼虫の草食はクスノキやヤブニツケイなど。立花山にはクスノキの原生林があり特に多い。



**ジャノメチョウ** ジャノメチョウ科  
出現期7月～9月  
幼虫の食草はカヤツリグサ、ジュツタマなど。雄は雌より円形の黒紋が大きい。



**オナガアゲハ** アゲハチョウ科  
出現期6月～9月  
幼虫の食草はコクサギ、カラスザンショウなど。雄は後ろ羽に白紋がある。



**アブラゼミ** セミ科  
出現期7月～9月 体長50mmほど  
中型のゼミ。ホルトノキに多い。ジー・ジーと鳴く。



**クマゼミ** セミ科  
出現期7月～9月 体長70mmほど  
大型のゼミ。センダンの木に多い。ワシ・ワシと鳴く。



**ツクツクホウシ** セミ科  
出現期8月～9月 体長35mmほど  
小型のゼミ。サクラの木に多い。ツクツクホーシと鳴く。



**ダイミョウセセリ** セセリチョウ科  
出現期5月～9月  
幼虫の食草はヤマノイモ、タチドコロなど。雄は雌より白斑が大きい。



**モンキアゲハ** アゲハチョウ科  
出現期5月～8月  
幼虫の食草はカラスザンショウやハマセンダンなど。雌は後ろ羽に赤紋がある。



**ジョウカイボン** ジョウカイボン科  
出現期5月～8月  
花や葉の上で他の昆虫を待ち伏せし捕らえて食べる。雄と雌の区別はつきにくい。



**ヨツスジトラカミキリ** カミキリムシ科  
出現期6月～8月 体長15mmほど  
腹部に4本の縞模様がある。この模様がスズメバチに擬態して身を守っている。



**ゲンジボタル** ホタル科  
出現期6月～7月  
我が国のホタルのうち最も大きい。幼虫は川の中でカワニナを食べて成長する。低山の小川にすむ。



**アオカナブン** コガネムシ科  
出現期5月～8月 体長25mmほど  
クヌギなどの樹液が食料である。指でつまむと足のとげが刺さって痛い。

# 野鳥



**ヒヨドリ**(鶉)  
全長約27.5cm 留鳥で、低山から山林に生息。樹上生活が主で、昆虫や木の实、花の蜜、熟した柿などに集まる。大きな波状を描いて飛びながら、ピーツ・ピーツと鳴く。



**シジュウカラ**(四十雀)  
全長約14cm 留鳥で、平地から山林にすみ、樹洞に巣。庭や公園で繁殖。昆虫やクモ、木の実を食べる。さえずりはツビーツビーなどの繰り返し。



**ヤマガラ**(山雀)  
全長約14cm 留鳥で、広葉樹林にもっとも多く、樹洞に巣。固い木の実も食べ、蓄えることもする。地鳴きはツーツー・ニーニー、さえずりはツーツーピーツーツーピー。



**ウグイス**(鶯)  
全長16cm 留鳥で全国の笹の茂った山地などで繁殖。冬は山地から平地や市街地に移動する。体は褐色で、眉はんがある。繁殖期はホーホケキョと鳴くが、冬はチャチャと舌打ちするように鳴く。



**スズメ**(雀)  
全長14.5cm 日本全国の人家近くで見られる留鳥～漂鳥。褐色から紫褐色で、頬に特徴的な黒斑がある。幼鳥は全体的に淡い色で、頬の黒斑が見られない。チュンチュンと鳴く。秋から冬にかけて集団をつくる。



**ヒバリ**(雲雀)  
全長17cm 頭に短い冠羽があり、時に立てる。九州以北の低地などの草地や河原で繁殖する。通常はビュル・ビュルと鳴くが、繁殖期には空中で長時間にわたり複雑な声で鳴く。



**カワラヒワ**(河原鶇)  
全長約14.5cm 留鳥で、平地から山地の明るい林に生息する。木の实や草の实を食べる。地鳴きはキリキコロコと小さく鳴く。



**エナガ**(柄長)  
全長14cm 留鳥で九州北部の低山から山地の林に見られる。小型の鳥で、尾羽が長い。チーチー、ジュルリなどと鳴く。秋になるとカラ類、メジロ、コゲラなどと群れをつくる。春先には樹液を飲むことがある。



**コゲラ**(小啄木鳥)  
全長約15cm キツツキ科では最も小さい。留鳥で、樹洞に巣をつくる。市街地にも現れる。ギー・ギーと鳴く。



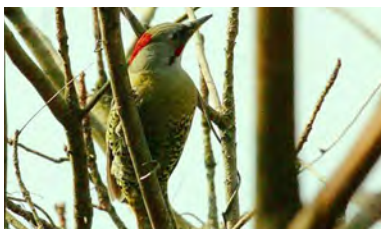
**ミサゴ**(鶇)  
全長60cm 翼を広げた長さ160cm 頭と体の下面が白く、羽は細長く見える。海、河口、湖沼などで魚を獲る。空中で停止し、急降下して水中の魚を獲るが、採餌後には飛び上がり体を震わせ水を振るい落とす。



**シロハラ**(白腹)  
全長24cm 冬鳥でやぶやや暗い林の地上で餌をとる。濃い灰色の頭、白い腹、茶褐色の背で、飛ぶと尾羽の両端の白色が目立つ。キョッキョキョ、ツイーなどと鳴く。



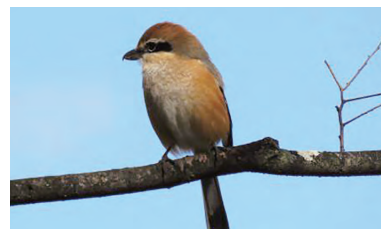
**ジョウビタキ**(尉鶇)  
全長約14.5cm 冬鳥として、平地から山地の明るい林や川原などで単独行動をする。昆虫や木の实を食べる。ヒツヒツと鳴く。頭を下げて尾を細かく振ってカツカツとも鳴く。



**アオゲラ**(緑啄木鳥)  
全長29cm 留鳥で青森県から屋久島の低地から低山の林にすみ日本特産のキツツキ。頭頂部と嘴の後ろが赤く、腹に横縞がある。キョキョ、ケレケレなどと鳴く。主に、幹に留まって虫などを食べる。



**ムクドリ**(棕鳥)  
全長24cm 留鳥で、平地や盆地の人里付近に生息。樹木の点在する村落地や市街地の公園などで地面を歩きながら、主にミミズや昆虫を食べる。キュルキュル、リャーリャーと鳴く。



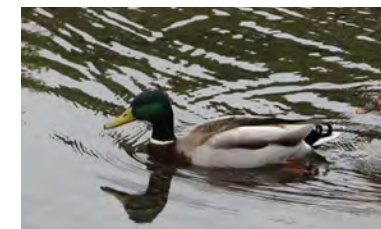
**モズ**(百舌鳥、鶇)  
全長約20cm 留鳥で、平地から山地に生息。秋から冬にかけて1羽ずつ縄張りを持つ。昆虫や小動物を食し、捕らえた獲物を小枝などに刺しておく習慣がある。



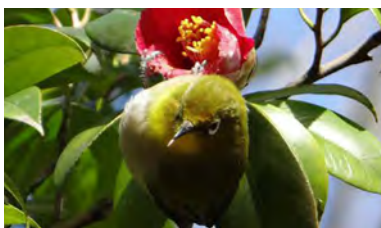
**ツグミ**(鶇)  
全長約24cm 冬鳥として渡来し、丘陵地や畑、川原に生息。木の实を主食とし、蛾の幼虫やミミズなども食べる。クイックイッと鳴き、枝にとまってクワツクワツと鳴く。



**マヒワ**(真鶇)  
全長約12.5cm 冬鳥として、平地から山地の林に渡来し、木の実の種子を食べ、春には花芽や種子も食べる。ジューンと鳴き、ジュジュと小声をだし、ツイーン、ビューンツツンチクチクジーと鳴く。



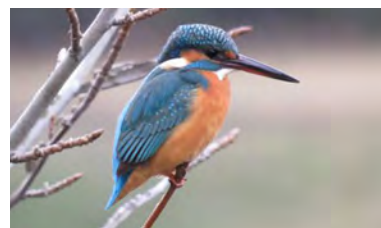
**マガモ**(真鴨)  
全長約64cm 冬鳥として、内湾や外海及び湖沼や川などに住む。雄はグエグエ、雌はグエグエと大きな声で鳴く。



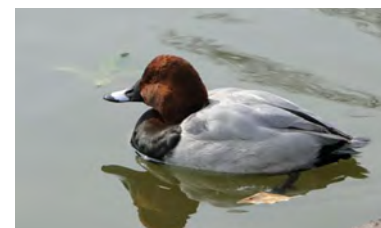
**メジロ**(目白)  
全長約11.5cm 留鳥で、平地から山林の林に生息する。広葉樹林が最も多い。地鳴きはチーチー、警戒はキリキリと鳴く。



**ハクセキレイ**(白鶇)  
全長約21cm 冬鳥として、多数渡来(一部留鳥)し、水辺に多く、地上を歩いて昆虫などを食べる。大きな波状を描いて飛びながらチュイチャー・チュイリーと鳴く。



**カワセミ**(翡翠)  
全長約17cm 川・湖沼・池など水のある所に留鳥として住み、土手に横穴を掘り産卵。水の上の草の茎などにとまり、魚を狙って急降下して捕食。チーと鳴いて水の上を一直線によく飛ぶ。ツツーツツツツチャーなどと鳴く。



**ホシハジロ**(星白鳥)  
全長約45cm 冬鳥として、内湾や湖沼・川にすみ、水に潜って水草や種子、あるいは小魚や貝類などを食べる。



**オシドリ**(鴛鴦)  
全長45cm 留鳥または漂鳥で、湖面に突き出した樹木の枝に止まることが多い。雄は色彩豊かで美しく、雌は灰褐色で目の周りが白くて愛らしい。ドングリをよく食べる。



**カワウ**(河鶇)  
全長82cm 九州以北で繁殖する留鳥または漂鳥。鶇の仲間では、唯一樹上で営巣する。湖沼、河口、入江などで潜水し魚を獲る。近年、著しく増加している。鶇飼の鶇はウミウである。